

日根野中だより

令和5年7月14日発行 日根野中学校 校長 武田 博之

より質の高い集団を目指して…

物事の真実を捉える力を身につける…そんな夏休みに…

この一学期、この三年間のことを考えると、活動内容も期間も保証され、元の状態に近づきました。特に3年生はやっとの思いで、クラブ活動…「最後の夏」を迎えることになりました。心身ともに充実したとは言えないかもしれませんが、目標の持ちにくかった三年間のことを思えば、まだ恵まれた状態…。どんな強い思いで迎えているのか…？そんな気持ちを聞いてみたい気がします…。でも、何より大事なのは、今、健康で生活できていること…。何があってもおかしくないこの社会状況の中、その場に立つことが出来たことだけでも、まずは

「感謝！」ではないですか？ その広い視野のもと、物事を判断できれば、なぜか心も落ち着き、これからの自分のあるべき姿を考える「思考回路」が働きだすような気がします。

先生の立場で伝えるにはありますが、正直先生方も、心身ともに疲れ切った中で、みんなの活動を支え、準備し、その場に立って来ています。クラブ活動でも、かなりの無理をした中で、みんなの将来のため何が大切なのかを必死に考え、メニューを組み立て、ミーティングをし、みんなを導いて来ています。そんな中で、うまくいかないことも正直あります。でもそんなときには、こう考えてほしい…。物事には表裏があり、違う角度から見れば、全く違う見え方となる…。そんな物事の捉え方が出来れば、考えも深まり、より力をつけることができ、幸せを感じることに繋がる気がします…。どうでしょうか？一面から見れば、意味の分からない光景であっても、「その理由やその人の思い」…が見えてくれば、逆に深い納得につながることも実は多いものです…。私はまず、人の行為を善意で受け取ること…これを心がけています。余裕のない時は、そんな風にとれない時もありますが、できる限りそのようにしています。だから幸せを常に感じます。人の行為を善意でとれない人は、人の行為が気になり、悪いところばかりが目につき、心が疲れ、残念なことに不幸を引き寄せる結果になってしまうのでは？…と心配さえしています。

成長とは古い自分を
新しい自分に
変えていく作業…
小さな決断の積み重ね…
その結果だと思えます

どうぞこの、少し時間の余裕ある夏休みを利用し、心身の疲れを取り、しっかり物事を正確に捉える努力をしてください。人の悪いことばかりが気になるようでは、余計にしんどくなります。少しでも人のいいところを見つけ、評価し、認め合う努力をしてみましょう…。そのあとには、幸せを感じる…「お返し」が、自分にも必ずやってくるものです…。

物事の捉え方…。物事には二面性がある…。多面的に捉える努力してみる…。なぜ？…と違和感を覚えたとき、その裏にある理由を考えてみる…。そんな習慣が身につけば、集団がより高いレベルになっていく気がします。がんばってください。

この夏休みに考えてほしいこと…**記録**よりも語り継ぐべき**記憶**を残す…

今の科学の進歩からも、いろんな資料は、人間が引き継いでいくことができるようにはなりません…。具体的に詳しい資料として、この三年間の新型コロナウイルス感染症の流行状況など、何百年もの間、引き継がれていくだろうと思います。しかし、約100年前に日本でも大流行したとされる「スペイン風邪」…死者が38万人…。こんな近い歴史の中での、悲惨な数字だけが残し、今を生きる自分たちにも伝わってはきませんが、その当時の人達が、どんな振る舞いをしていたか…世界中がどのように揺れ動いたのかなど…そんな話は残念ながら聞いたことがありません。実際にその中で生活していた人たちの「生の話」が伝わってこない…「継承」されていないのが事実だと感じます。

東日本大震災の「釜石の奇跡」を生んだ、その地域の「言い伝え」のような伝わり方は本当に稀であると感じます。日頃からの避難訓練の徹底、「津波てんでんこ」の意味を子どもたちにもきっちり教え、実践につなぐことができた…こんな素晴らしい結果を生んだことも、実際には難しくなってきたように思います。

ましてや、今回の感染症の流行をきっかけに、インターネットを利用した「リモート化」が進み、リモートの中でも、お互いの感情の交流が十分出来るといわれていますが、それは大変難しい気がします。資料は詳しくは残るとは思いますが、本当に大切なもの（心）が伝わり切らない…そんな時代（そんな感覚の時代）になってくるように思えてなりません。アナログ世代の人間にとっては、不安ばかりが残ります。話を聞いて、学んでいくこと…これももちろん大事ですが、何より大事だと考えるのは、面と向かって直接話をし、肉声で伝えていくこと…。それも不要だとみんなが思ってしまう時代が来るのが、何よりの不安となっています。

個人個人の記憶の集積が本来の歴史だと思えます。大事に考えるべきことは、しっかりと生の声で…、話を心で聴くこと…。安全に十分な配慮をして、そんな場面を学校が提供していくこと…。これが当面の課題のように感じます。この夏休み…少し家庭での時間が増える中で、是非とも話し合いを通して、「家族の絆」を深める機会になれば…と思っています。